

50周年記念OB記念山行報告

(山城) 中央アルプス木曾駒ヶ岳

(コース) しらび平～千畳敷カール～宝剣岳～木曾駒ヶ岳～千畳敷カール～しらび平～木曾駒高原
(一部のメンバーで木曾駒ヶ岳山頂～福島Bコース～木曾駒高原)

(日時) 2015年9月25日夜行発～9月27日

(天候) 晴れ

(参加者) 現役 富樫 正三・今泉 敏男・土屋 康広・西岡 康広・八角 洋・菊池 典雄・小倉 時義・
寺崎 眞理・白井 浩司・白井 よんえ・渡辺 純子・上茂 美砂子・広木 国昭・
広木 愛子

OB 岡田 正勝・古瀬 健・木ノ内 秀男・小野 重樹・小沢 武巳・高橋 均・中畑 則彦・
佐久間 秀夫・黒木 信之・池杉 清子・富樫 良子・飯塚 秀岳・飯塚 香代子・
片山 芳子・小倉 笑子・窪田 英夫・白石 美穂・橘 郁夫・東郷 朝子

ゲスト 池杉 文昭・飯塚 稜太・飯塚 冬馬・白井 陽香・白井 太一

(コースタイム) 本文に記載

半世紀の時を刻んだ「ちば山の会」、50年の歴史の中で一人一人の会員達の活動が現在に受け継がれて今の活発な会活動に繋がっている。

現在、ちば山の会は創立50周年を記念して太平洋から日本海まで日本の屋根といわれる日本アルプスの稜線とそれらをつなぐ林道や国道をも踏破する日本横断のリレー縦走を実施している。

このリレー縦走の一環として、OBと現役会員の有志による木曾駒ヶ岳山行を計画した。そして、運営委員会や木曾駒ヶ岳リーダーのご尽力により、現役会員パーティとOBパーティが登山コースや下山後の親睦会で合流するはこびとなった。

OBパーティは、リレー縦走登山の一翼を担うとともに、新旧会員の思いを共有すべく交流のための親睦会をも重要な目的の一つとしていた。そして、もし天候不順で山頂を踏むことができなくても、その目的の一つである親睦会は達成できる気楽さがあった。

一方、現役パーティはリレー縦走を完遂すべく木曾駒ヶ岳から福島Bコースを通して木曾駒高原へ下山。その後も16kmあまりの林道・国道をも歩き通し蕨原まで繋ぐべく計画をしていた。天候不順は山の中のみならず山里や町の走破にも重大な影響を及ぼすことより、天気予報が想定する最悪の天候を考慮したものと思うが、出発3日前に早々に延期を決定した。そこで、当初現役パーティとして参加する予定であった現役会員の一部がOBパーティに合流することとなった。

出発2日前突然に、駒ヶ岳山頂の天気予報は絶好の登山日和を予想するものになった。おかげで当初予定していたこのOB山行の目的の多くは見事に実現することとなった。

ここに、50周年記念OB山行の報告をする。

9月25日 21:00 千葉駅北口に集合、時間どおりに古参の古瀬さん、チャンピオンこと岡田さんをはじめ、参加者が次々に手を上げながら集ってきた。早速、実行委員長直々の運転によるマイクロバスで定刻どおりに千葉を出発した。高速道路の途中、駒ヶ根ICに近い小黒川PAでテントでの仮眠。その作業も勝手知たる会のOB達、テントは軽やかに設営された。

9月26日 5:00 現地集合場所の宮の台バスセンタに、神戸の単身赴任先から新幹線を乗り継いでやって来た黒木さん。松本に居住している飯塚さん親子は4人で、新潟からはキイちゃんこと池杉さん(旧姓飯塚)が御主人と同伴で、山梨の小野ちゃん(会のホームページの創設者)、現会員の白井ご夫妻は親子4人で、それぞれ車で現地参加。東京からは高速バスでの片山さん(旧姓桜井)が早々と到着していた。不安であつた現地集合も、さすが元ちば山のメンバー、定刻に手を上げながらニコヤカな笑みを浮かべて集って来た。

心配していた天候は、麓の駒ヶ根は曇り。しかし、山頂の天候は二日前の予報通り晴れ。3日前までの雨(しかもかなり荒れそう)の予報のおかげで菅の台バスセンタはまったく混雑なし。

6:00 総勢38名の人員を確認して、団体ということで専用バスを用意してもらい一路しらび平へ。10分ほどの待ち時間で6:50 ロープウェイに搭乗。高度は上へ上へと。紅葉はこの時を待っていたかのように今が盛り。「凄い、凄い」の声が思わず出てくる。涸沢の紅葉に匹敵する素晴さだ。

7:30 千畳敷からは本格的な登り。記念撮影後、3パーティに分かれて、10:30山頂到着を目標に出発した。



今泉パーティは浄土乗越ルートを、飯塚ご夫妻(子供2名)・白井ご夫妻(子供2名)・富樫(正)さん・小沢さん・木ノ内さん・東郷さん・小野さんの14名の面々が、5歳の子供の笑顔をエネルギーに、ゆっくりと山頂を目指す。

西岡パーティは女性が主流で、OBの富樫(良)さん・白石さん・片山さん・現役の広木(愛)さん・上茂さん・渡辺さん・寺崎さん、そして男性はOBの窪田さん・橘さん、現役の小倉(時)さん・広木(国)さんの12名。極楽平から宝剣岳を経由して木曾駒ヶ岳、そして下山ルートは福島Bコースで4時間、この山行の最も厳しいコースである。

土屋パーティは、当初、千畳敷周辺を探索のみと考えていた高橋さんを含め、中畑さん・佐久間さん・黒木さん・古参の古瀬さん・岡田さん・池杉ご夫妻・小倉(笑)さん・現役の菊地さん・八角さんの11名。西岡パーティと一緒に極楽平から宝剣岳を経由して木曾駒ヶ岳ルートへ。

極楽平への登りから千畳敷カールの上を振り返ると小さな子供の元気に登る姿が愛らしく見える。

西岡・土屋パーティは宝剣岳のクサリ場を慎重かつ軽やかに踏破する。OBの方々の多くは現在も何

らかな形で山を楽しんでいるようでまったく快調、また久しぶりの登山と言っているOBの方々もノープロブレム。皆この花崗岩の岩場を楽しんでいる。

9:20 宝剣山荘で合流し木曾駒ヶ岳はもう目の前。大人はふうふう言っているが、子供達は元気がいい。



10:20 目標の木曾駒ヶ岳に到着、全員ニコヤカに笑みを交わしながら楽しそう。さっそく記念撮影。



知る人ぞ知る名物OBで今回のOB山行を心から楽しみにしていた佃さんが、OBの皆さんに募集の手紙を出した頃、かねてよりの病状が悪化し入院してしまった。そして、このOB山行への参加を見送ることになったのみならず、9月24日早朝に息を引きとった。現役当時、多くの会員に愛され、多くの足跡を残した彼の冥福を祈って富士山とその向こうの千葉に向かって全員で黙祷。

10:45に福島Bコースを下山する西岡パーティを見送り、今泉・土屋パーティは千畳敷カールへと下山。13:00千畳敷からロープウェイ、バスは団体ということで優先的にバス乗車口に到着、マイクロバスと現地参加された車は今夜の宿泊地の木曾駒高原の民宿丸中山荘へ。途中二次会用のビール10本の買い出し。気持ちは温泉と今夜の親睦会へ。

16:00 宿泊地到着。思い思いに温泉を楽しむ。

西岡パーティは、素晴らしい紅葉に見とれていたのか、予想外に厳しいルートに苦戦したのか下山予定時刻に遅れるとの電話連絡があった。(詳細は後記)

16:50 心配された西岡パーティのメンバーも無事に旧木曾駒高原スキー場まで下山。迎えに出した車にピックアップし、予定より1時間遅れで17:00頃に山荘に到着した。

18:00から宴会。38名が一同に揃い、チャンピオンの音頭で、会のあゆみが今回の山行に結び付き、そしてこの顔ぶれで一同に顔を合わせることができた事に感謝し、また皆さんの無事と労をねぎらって乾杯。今泉さんの司会で楽しい宴会はすすむ。

ここで、佃さんから入院中の病院でもらった差し入れの焼酎を皆で酌み交わし、1970年代、会の合宿があると参加できない会員がよく酒を差し入れしたことを思い出す。当時は本当によく飲んだ。

新旧いり混じっての宴会は賑やかだった。1980年代のスライドを少し映写。そして、自己紹介、名前だけは知っているが初対面の人もいた。久しぶりの会の楽しさにまた会に復帰したいとの発言も出て来た。

20:00 閉会。飯塚家族は松本へと帰路につく。

余力のあるメンバーは二次会で別部屋に集合。1970年代、80年代、90年代のスライドを映写すると、その時その時の懐かしい顔が出てくる。どの顔も若く、それぞれの場面が蘇ってくる。

昔のようにいつまでも飲まないであろうと思いきや、0時を過ぎても話は終わりそうにない。力つきたる者からフトンの中へ。

9月27日 朝、女性陣が栗ひろいの探索、8:00から朝食。会話は弾み尽きることがないが、ここで今回のOB山行は終了。

山荘を後にマイクロバスは一路千葉に向け、現地集合者達はそれぞれ家路にいた。



西岡パーティー（福島Bコース下山）の詳細

ちば山の会では、このコースを歩く機会はありませんが、今後の参考に少し詳細に記す。

メンバー 白石・富樫（良）・渡辺・片山・上茂・寺崎・広木（愛）・窪田・橘・小倉（時）・西岡
（広木（国）は木曾駒山頂手前で土屋パーティに移る）

コースタイム 木曾駒ヶ岳山頂 10：45 発・・・玉ノ窪小屋 11：15・・・8合目 12：20・・・
7合目 13：20・・・5合目 14：40・・・4合目 15：50・・・林道 16：15・・・
旧木曾駒高原スキー場駐車場 16：50・・・（車）・・・山荘着 17：05

木曾駒ヶ岳の山頂から玉ノ窪小屋までは快適な尾根歩きである。山頂は多くの登山者あふれていたが一歩木曾前岳の方向に向かって踏み出せば、そこは我々パーティのメンバー以外はだれもない静寂の世界が広がる。

左後には宝剣岳の岩峯、南の方角には空木岳、そのすぐ右に南駒ヶ岳、更にその右に雲海に浮かぶ恵那山。中央アルプスの峰々が美しい。西にはまだ少し煙を吐いている御嶽山、たしか去年の今頃多数の遭難者を出した大噴火があった。心で手を合わせご冥福を祈った。北の方には槍・穂高岳をはじめとする北アルプスの山々が臨める。そして、目の前をみれば花崗岩の奇岩が目を楽しませてくれる。中央アルプスはその名のとおり日本アルプスの中央に位置しその展望はまさに絶景である。



玉ノ窪小屋から稜線を外れてカールの中へ下りて行く。おりしも3日前の天気予報の大外れで、まぶしいほどの太陽の光をあびた紅葉の真只中に突っ込んで行く。一生の幸運をここで使い切るのかと思えるほどである。

8合目を過ぎたあたりで、急傾斜の斜面をわずかに切り開いた細い登山道で10人ほどの中年登山パーティとすれ違った。彼らの話によると今日、日本200名山の踏破のため日本列島を縦断中の田中陽希氏が南駒ヶ岳を歩いているとのこと。もし我々が越百山あたりから木曾駒ヶ岳に縦走していれば、彼に出会った可能性は高い。そうすると、「日本縦断」の田中陽希氏と「日本横断」の我パーティが出会うことになり、南駒ヶ岳が日本の山の交差点ということになる。なんと素晴らしいことになったであろう。想像するだけでも楽しい。

7合目避難小屋の前で少し長めの休憩をとった。ここからは急傾斜の森林帯をただひたすら下ることになる。



7合目からは今が盛りの紅葉に別れを告げて、針葉樹の樹林帯の中を下る。

古い倒木がそのまま苔むして、その苔の間に新しい芽吹きがある。まさに人の手が入っていない原始の森である。

7合目の次はなぜか5合目。この間が実に遠い。うんざりするほど下ってやっと5合目である。

ここから先4合目までも長い。時間の遅れを気にしながらペースをあげた。5合目から4合目の間で、1997年版の登山地図と2015年版の登山地図の違いに気がついた。

まず、古い地図では木曾駒頂上から旧木曾駒高原スキー場までのコースタイムは4時間であるが、新しい地図では4時間40分であり、40分も長くなっている。また、古い地図上の4合目の表示が現在の地図の5合目あたりの表示とほぼ同じ所を指している。何合目の表示が地図上も実際上も変わったのか、はたまた古い地図が単に誤記だったのか？

途中4.5合目に湧水があった。この水は実にうまい。標識の「力水」のとおりしばし疲れを忘れさせてくれた。

もうとっくに4合目を通り過ぎたのではないかと思った頃にやっと4合目の標識がでてきた。

新しい登山地図もなんだか怪しい。5合目から4合目までの間かなり下った気がするのに、近くに描きすぎているし、標高差も250m程度に記されている。そして、地図上の4合目から林道までの標高差はわずか100m足らずだが20分以上かかっている。4.5合目からはそんなに遅いペースではないので実際は200メートル位の標高差があったのではないか？

予定時間をかなりオーバーして少し焦っていたところやっと沢に出た。沢の向こうは林道の終点である。この長大なルートも終わりに近づいてきた。

この沢は飛び石伝いに渡るのだが大雨の時は用注意である。これより上は広大な樹林帯であり、急激な増水はないかもしれないが、大雨が続き水かさが上がれば急流となって人間などは軽く流されてしまいそうだ。このような時にこのルートを下山したらここで立ち往生になるだろう。3日前の天気予報どおり荒れた天気だったらと思い、改めて今日の晴天に感謝した。

ここから旧木曾駒高原スキー場の駐車場までは2km強、最後の頑張りである。この駐車場に着いたのが16:50、木曾駒ヶ岳の山頂を出発してほぼ6時間である。途中紅葉を愛でていたせいもあるが、地図上の時間を1時間20分、我々の予定を約1時間オーバーしてしまった。

福島Bコース、決して侮れないコースである。

記念山行を終えて、それぞれの時代で山に共に登り、楽しみ、励ましあい、苦しみ、語り合い、飲み交わした友がここに一夜を共に過ごした。私達にとって「山」は「たかが山、されど山」なのであり、心の故郷のような「ほっと」でき、力を与えてくれる存在であることを改めて感じた。

どの時代にもその時の顔があり、「ちば山の会」が発足して 50 年を迎えようとしている中、これまでただ一人の犠牲者を出していないこの山の会の伝統が今後も守られ生かされれば、OBの皆さんから受け継がれてきた山への思いが、現役の皆さんの更に高度に成就した山への思いへの糧となると信じます。